

まちかど

アルバム



春を告げる「もちがせ流しびな行事」

用瀬町

旧暦の桃の節句にあたる3月29日(日)、県の無形民俗文化財に指定されている、伝統の「もちがせ流しびな行事」が華やかに行われました。各家庭の通り沿いにひな人形が飾られた風情ある町並みは、大勢の観光客でにぎわい、千代川ふれあいの水辺で行われた「ひな流し」では、晴れ着姿の女の子たちが保護者と一緒に、さん俵にのった男女一対のひなを川に流し、手を合わせて一年間の無病息災を祈りました。

桜ヶ丘中生徒が絵本の読み聞かせ

市役所本庁舎

「第1回とっとり手づくり絵本コンクール」(市立中央図書館主催)で1等を受賞した桜ヶ丘中学校文芸部(吉田真弓部長)の女子生徒12人と、顧問の坂本祐子教諭が3月27日(金)、竹内市長を訪問。受賞の喜びを報告した後、部を代表して3年生の細川愛さんが市長に読み聞かせを行いました。絵本「あまのじゃくがおとした山〜大路山と面影山〜」は、力強いタッチで描かれた鮮やかな絵が特長。500部出版され、市内の図書館や小中学校、保育園などに置かれています。



かわいい鯉のぼりができました

福部町子育て支援センター

4月9日(木)、福部町子育て支援センター「スマイル広場」で、毎月恒例の工作教室が開催されました。この日の題材は、端午の節句に向けての鯉のぼり作り。参加した子どもたちは、お母さんと一緒に画用紙で作った胴体に和紙のうろこをはりつけ、ピンク色や水色など、色とりどりの鯉のぼりを作りました。この鯉のぼりは、それぞれの家庭で端午の節句の飾りとなるそうです。

桜の下で詩吟を楽しむ

鹿野城跡公園

桜の名所、鹿野城跡公園で4月5日(日)、「桜花の宴」が開催されました。桜の木の下に設置された舞台では、吟道流日本吟翔会宗家の佐藤翔風さん(湯所町二丁目)らによる模範吟詠(詩吟の披露)や、同会鹿野支部、宝木支部、青谷支部による吟詠、早淵流剣詩舞道鹿野支部による剣詩舞などが披露され、花見客を魅了。同会鹿野支部長の吉田宏明さんは、「この機会に愛好者を増やし、次世代に引き継いでいきたい」と語っていました。





花いっぱいのキルト展 開催中

因幡万葉歴史館

国府町の因幡万葉歴史館では、春から初夏にかけての花の模様を使ったキルトのタペストリーや敷物、かばんなど約100点を展示した「花いっぱいのキルト展」が、5月10日（日）まで開催されています（入場無料）。初日となった4月7日（火）には大勢の人が訪れ、手の込んだ作品に思わずため息をついていました。キルトは、基本的な作り方は同じでも、模様の組み合わせにより多様な作品を生み出すことができます。

おもちゃの病院開設

わらべ館

4月5日（日）、西町3丁目にある童謡・唱歌とおもちゃのミュージアム「わらべ館」に、おもちゃの病院が開設されました。仕事でおもちゃの修理をしていた人や、おもちゃ愛好家22人がお医者さんとなり、次々に訪れる患者さん（おもちゃ）を手際よく診察。中には重症の患者さんもありましたが、みんなで知恵を出し合って治療に当たると、元気になって退院しました。次回の開設は5月24日（日）午前10時～午後3時の予定です。



春の訪れを感じながら

佐治町山王地区

3月14日（土）と15日（日）、五しの里さじ地域協議会が参加者を募ったスノーシュー・田舎暮らし体験に、市内の小学生が参加しました。体験場所となった佐治町山王地区は、市内有数の豪雪地帯ですが、3月中旬にもなるとあちこちで新芽が顔を出し、春の訪れを感じさせます。子どもたちは、インストラクターを務める協議会メンバーの案内で、雪の上を転がったりツツにぶら下がったりして、大自然の世界を満喫するとともに、冬の名残を楽しみました。



羊の赤ちゃん こんにちは

気高町宝木

河内川の土手で飼われている羊たちにかわいい赤ちゃんが生まれ、地域の人気者になっています。これは、気高町



宝木で羊毛を紡ぐ活動をしているグループ「ひつじかい」が、景観保全を兼ねて飼育しているものです。4月8日（水）には、ひかり保育園の子どもたちが子羊に会いにきました。園児たちは、「かわいい」、「モコモコしている」と言いながら子羊を優しくなで、ミルクをいっぱい飲んですくすく育つよう願っていました。

日本一きれいな砂丘に

鳥取砂丘



4月5日（日）、毎年春と秋に行われている恒例の鳥取砂丘一斉清掃が行われました。きれいな砂丘で観光客をお迎えしようと、市内の企業や市民グループなど約3600人が参加。千代川河口から岩戸海水浴場まで約7kmの海岸沿いをビニール袋片手に清掃し、心地よい汗を流しました。この日集まったごみは約1.6トン。みなさん、おつかれさまでした。